



■新任教員の紹介

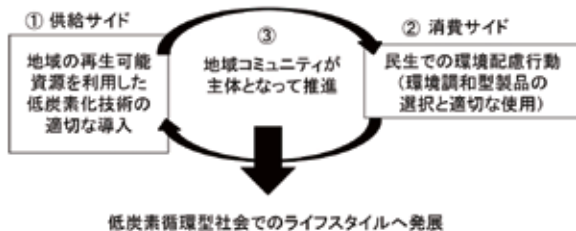


グリーンアジア国際リーダー教育センター
 助教

前 奈緒子

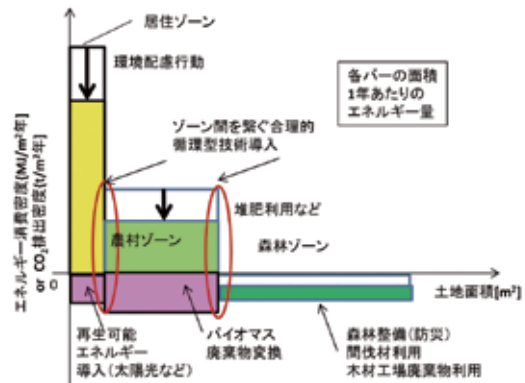
平成26年4月付けで九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター助教に着任しました前奈緒子と申します。

私は平成20年に同志社大学社会学研究科(社会学専攻)修士課程に入学し、組織や集団の社会心理に関して研究してきました。具体的には、インターネット上のコミュニティにおける集団の親密性についてコミュニケーションという観点から研究をしていました。研究を進めていくうちに、現在の人類社会の最大のテーマの一つである環境問題を、集団の社会心理の面から解決していく手段を考察することに興味を持ちました。これを進めるには、文系要素だけでなく、技術という理系要素と融合させることが重要であると考え、修士課程修了後、京都大学地球環境学舎博士後期課程に進学し、文理融合という視点から「低炭素循環型社会構築を支援する各種環境指標の開発と地域コミュニティ設計に関する研究」と題した研究を行ってきました。具体的には、低炭素循環型社会を形成するためには、技術と地域の政策の連携が不可欠となります。これには、地域資源を利用したエネルギー供給サイドの低炭素化技術の適切な導入と、民生を中心とする消費サイドの環境行動(環境調和型製品の選択とその適切な使用)を地域コミュニティが主体となって進める必要があります。



これを可能とするには、(1)技術と連動して地域エネルギーの供給コストや環境評価が可能な方法論、(2)省エネ製品と使用法を同じスケールで評価し、定量的に環境行動指針を提示する手法の開発が望まれます。さらに、(3)地域コミュニティがある環境行動指針をもとに有効に動くためのメカニズムや方策を考える必要があります。上記(1)~(3)に関して、新環境評価指標、エネルギーとコストの両面を考慮した設計型ダイアグラム、環境行動の価値評価法などを

提案し、例えばこれまで定性的評価に留まっていた環境行動の価値を技術と対比させて定量化するなど、各提案法の有効性を明らかにしました。さらに、インターネット・コミュニティを組み込んだ地域コミュニティのモデルを作成し、技術と環境行動融合型の低炭素循環型社会の構築の可能性を示してきました。



上記のように、私は修士・博士課程で文系と理系の両方の研究室で学ぶという非常に貴重な経験をしました。本プログラムでも、理工系の学生は自分の専門だけでなく、政治、経済、社会についても学び俯瞰的な視点を養います。文理両方学ぶことにより、理系的な視点である環境・資源の制約と文系的な視点である経済的成長の発展というジレンマに陥ってしまうことがあると思います。私自身も文系分野から理系分野へと幅を広げたときに、様々な考え方の違いに直面しました。しかし、環境問題の解決を実践していくには、技術の面も人間の社会生活の面も無視することは出来ません。よって、この部分は理系的な考え方が適合し、あの部分では文系的な考え方が適しているという様に考えるように日々努力しています。

学生諸君が、バランス感覚、的確な課題解決能力、俯瞰力をもった、持続的社會を担う理工系リーダーとして飛躍するために微力ながら貢献できればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。